

平成27年度 第3回埼玉県立図書館協議会会議録

◇ 日 時 平成28年2月18日(木)午後2時30分～午後4時45分

◇ 会 場 久喜総合文化会館 視聴覚ライブラリー室

◇ 出席者 (1) 出席委員
土屋かおり委員 金子貞雄委員 安藤正徳委員
若松昭子委員 渡部貞一委員 早川恭子委員
杉山きく子委員 中村公雄委員

(2) 図書館職員

【県立熊谷図書館】

乙骨館長 大嶋副館長 民本副館長 河崎副館長
木村教育主幹 荻原主席司書主幹 蓮見司書主幹

【久喜図書館】

田柳館長 関副館長 銭場教育主幹
佐藤担当課長 黒須主任

(3) 教育局職員

【生涯学習文化財課】

奥木主幹

◇ 会議次第

1 開 会 [久喜図書館 銭場教育主幹]

2 あいさつ 県立久喜図書館 田柳館長

3 平成27年度第2回会議録報告

4 会議録署名委員の指名

会長が、杉山委員と安藤委員を指名し、了承された。

5 会議の公開について議決

傍聴希望者が3名いることを報告。会長の指示で傍聴者を入室させる。

6 議 事

(1) 県立図書館運営の重点目標・重点取組案について

[熊谷図書館 荻原主席司書主幹]

要覧と資料1に基づき、県立図書館運営の重点目標・重点取組案について説明。

【質疑】

委員／基本方針について言葉を変えて重点目標に置き換えている。その中の細かい項目が今度の小委員会で出てこない、この資料だけでは何を審議していいかわからない。ただ一つ有識者会議の提言の中から5番目を取り上げてもらったのは良かった。有識者会議をやった甲斐がある。今度の小委員会でより細かい項目や評価数値などを見ないと、このままでは今までの議論の続きなので審議ができない。

事務局／今のご意見に関して、基本的には基本方針はそのままでという話で、それに基づいて5項目設定した。委員が言われたとおりそのまま基本方針からスライドしているというイメージがあるが、この基本方針の4項目は県立図書館にとって非常に重要な項目であり、これを重点目標から外すわけにはいかず、そのままスライドさせている。まだ新しい図書館の全体像が何も見えない状態であり、当面2館でのサービスを継続していくという観点でいくと、そのままの項目で進めたいと考えている。

会長／1から4は今までの方針を継承、5については前回の委員会で出てきた決定を基にして加え、重点取組について少し整理がされたと理解した。その5番目に、利用促進を図るため、県立図書館の活動を知らせる広報の充実が入っている。広報は以前から重要課題であったが、特に浦和図書館がなくなった分、外部に向けた広報が重要になると思う。何か具体的な考えはあるか。

また、3番目の研修事業の推進という部分で、それをより充実させるため、研修会の回数を増やすとか、事業の中身を検討するとかの考えがあれば聞きたい。

事務局／まず1点目のPRの関係だが、現在、久喜図書館の名前を新聞紙上でよくご覧になると思う。久喜図書館の事業はかなりマスコミ関係に食い込んでPRしており、担当としては良い意味でのスパイラルになっていると考える。そのPR手法を熊谷図書館での事業にも利用しながら、なるべく露出度を高めていきたい。そのため、「彩の国だより」や県民に対する既存広報媒体にプラスして、もう少し県民の皆様の目につくようなPR方法を検討しているところである。SNS等新しい媒体の検討もあわせてしていきたい。

もう1点の研修内容だが、現在、回数的には目一杯行っている状況である。その中でその時々にあわせた特徴的なエポックメイキングな内容を取り入れている。今後は、図書館サービスに関わらず、先ほど出てきたPR方法の研修など図書館サービスから離れた分野の講師を招き、違った観点から研修を行うことも必要と考える。

会長／そのような研修が出来れば幅が出て面白いと思う。

ICTを活用した図書館サービスの推進のところで利用を促進するとあるが、熊谷図書館のリニューアルにともないホームページなどのリニューアルはあるのか。

事務局／熊谷図書館の建物のリニューアルにあわせて、県立図書館のホームページも見た目を新しくしようと準備中である。

会長／ホームページは親しみやすくということが目標だと思う。

来週に小委員会が開催されるので、評価指標等の検討をお願いしたい。

(2)「図書館と県民のつどい埼玉2015」の結果について

〔熊谷図書館 蓮見司書主幹〕

資料2-1及び資料2-2に基づき、実施結果について説明。

【質疑】

委員／このイベントにかかった費用や準備の期間はどれぐらいか。

事務局／費用は図書館協会から出ており、本日は数字を持ち合わせていない。

6月から実行委員会、企画広報部会ということで何回か会合を持ち、当日まで意見交換を行った。

委員／埼玉県は広いので、できれば4ブロックぐらいに分けてできないか。

事務局／講演会とビブリオバトルなどをセットにして開催しており、会場をおさえる都合から難しい面もあるが、今のご意見は実行委員会や企画広報部会に報告したい。ただ、実現は難しいと考える。

委員／図書館だけでやるとアトラクティブになりにくい。他の県の機関である博物館などと共催する方向は考えられないか。

事務局／タイトルが「図書館と県民のつどい」とあるように、図書館の様々な活動を県民に知ってもらおうという趣旨で始めたものであり、図書館が開催主体から抜けるということはない。ただ、委員ご指摘の博物館などの施設と何らかの形で連携するとののはよいことと思うので、実行委員会の中で検討していきたい。

委員／今回、会場がさいたま市民会館うらわになったのは、さいたま文学館が休館中でやむを得ないことだった。

ただ、気になるのは参加者総数が去年2,389人、今年1,408人という点である。「雨が降ったから」「会場が狭いから」というその2つの原因だけで片づけてよいものか。

もう一つ「県民」とは一体誰なのか、狙いは誰なのかという点である。というのは、去年はビブリオバトルで大変熱が上がったかと思うが、先ほどの報告では今年は大学生の参加者がだいぶ減ったとあった。それで良いか悪いかは別にして、この催しの狙いは誰なのかと考えた時にどう

対策をとったらいいかという問題がある。狙いと催し物の内容、そうしたところに減少の原因の一つはないのかと疑問を持った。4割も参加者総数が減ってしまった原因をもう少し考えてみる必要がある。

事務局／検証させていただく。今回、文学館が改修工事で使用できず会場自体が狭いということもあった。過去、さいたま市民会館で2007年に実施した時は696名だった。その後はさいたま市文化センター、浦和コミュニティセンターで実施し、1,500名から1,700名の参加があった。次年度はもう少し講演会場の広いところを確保したい。参加者についても、普段図書館を使っていない方にもPRしたいと考えており、学生の方を含めてアプローチの仕方をもう一度検討したい。

会長／委員の中で行かれた方はいるか。私もあまり長い時間ではなかったが参加した。参加された方のご意見はいかがか。

副会長／私は講演会とビブリオバトルに参加し、後は展示を見て帰った。先ほどの講演会のアンケートにあったが、何人かの方から赤ちゃんが泣きだしてしまっただけで、赤ちゃんの入場はどうかという意見が出された。普段、公共図書館は0歳から入館できると言っている手前、赤ちゃんを排除することはできないと思うが、会場によっては親子で話を聞ける部屋がある。文学館はどうだったかなと思いながら聞いていた。講演の終わり頃で質疑応答の時に泣き出したので、私としては、もう少しみなさん優しい気持ちになってもいいように思う。講演の冒頭から泣かれてしまうと困るが、県立図書館のように子ども室が分かれている所ばかりではないので、私としてはそれほど違和感なく聞き終えた。排除することになるのは望ましくないが、講演の対象を一般の方で高校生以上ということなら、受付時にフリーパスで入れてしまうのではなく、チェックも必要かと思う。

人数が減ったことに関しては、やはり会場が狭かったとことがあり、催し物、展示にしてもかなり縮小せざるをえなかった。去年までは学生に多く参加してもらい、展示も多くの方に見てもらったことを思うと、会場と、どういう物をどう見せるかという展開の仕方と、人をどういう風を集めるかということは繋がっていると思う。「図書館と県民のつどい」そのものが誰を対象にするかによって、催し物自体にいろいろな物を取り入れる必要が出てくるが、今回は古い建物で会場も不便な場所でやらざるをえなかった。会場のせいにははいけませんが、それも人を呼びづらかった原因かと思う。

委員／当日は終了間際に行き申し訳なかったが、雰囲気は分かった。赤ん坊の話が出たが、そういうイベント開催時は託児所を別に設けるのはよくあることで、ボランティアなどの協力を求めて託児を行うことが考えら

れる。あらかじめそういう託児が必要な方がいるということの主催者側が考えておくのは当たり前であり、それがサービスだと思う。

会長／私が参加した際の印象では、年末の12月半ば雨の日ということで、出足が少し悪かったという気がする。先ほどの説明には、これまでさいたま市文化センター、浦和コミュニティーセンターで開催された時には約1,500人から1,700人、桶川のさいたま文学館で開催した時は2,300人とあったが、桶川の時は常に参加者が多かったのか。

事務局／2011年から桶川のさいたま文学館で実施し、その年が1,598名、2012年が1,842名、2013年が1,694名、去年が2,389名の参加があった。

会長／桶川の参加者が徐々に増えているというのは、同じ場所でやると、ここでこういう催しがあるということが記憶に残って次の年の参加に繋がるといいうようにも考えられる。今後、場所を新たに探すということになるのか、それとも桶川のさいたま文学館のリニューアルが終われば、また桶川でやるのか。

事務局／500人から700人のキャパを持つホールを借りるとするのは、非常に経費がかかるので、なるべくかけない方向で探した結果、県が関係しているさいたま文学館で、共催、無料という形になった。先ほど、県内各ブロックでという話もあったが、そういう条件がそろっている場所を探すのは非常に困難であり、桶川が県を中心ということから、あの周辺でやらざるをえないと考えている。

会長／資料2-2を見ると、さいたま市からはたくさんの方が見えたが、それ以外の所は少しずつ減っている。埼玉県中央なら各地から来やすいということが考えられる。しかし、開催日の問題も出ていたと思う。12月半ばというのは皆忙しい。それについては、前回も同じ意見が出ていたと思うが、10月、11月は文化的な行事がいろいろあるので、逆に重なってしまう可能性もある。12月はそういう行事が無いのでメリットもあるが、実際には高校の教員の方は出にくいのではないかと。開催日の設定について何か考えはあるか。

事務局／先ほど会長の発言にあったが、さかのぼる10月、11月は読書関連のイベントが目白押しで、学校単位で同様の行事をやる所もある。なかなか重複して参加できないという意見があり、だんだん下がってきた経緯がある。今回は高校生がちょうど期末試験の時期であり、若い方の参加が難しかったと考えている。また今回の講演が、若い方よりすこし年配の方が対象になっていた。実際、客席を見ると昨年度は比較的女性で若い方が多かった印象があるが、今年は男性の中高年の方が多く、その辺で人数の上がり下がりがあると思う。また、昨年度は、こちらで広報

したものが作家のファンサイト上の掲示板に掲載され、それを見た方が県外から参加したという経緯があった。そういうことを含めて去年は非常に参加者が多かった。今年はそれに比べると少し地味な感じがあり、会場の問題もあり、講師の方の関係もあり、若干下がった。ただ、PRの方法については検討の余地がある。開催時期についても、今回学生が参加できない時期であったので、もう少し遅らせてやってみようと考えている。年末により近づくので、それはそれで難しいのかもしれないが、開催時期の上がり下がりをいろいろ検討しながら設定をしたい。

会 長／5月や夏休み期間中などはどうなのか。やはり秋からの文化的な催しのひとつということで、年の後半なのか。

事務局／「子ども読書の日」が5月のゴールデンウィークの直前なので、年度当初からの準備が難しいということがある。その時期にやることになる年度を越えて準備が必要となる。また、このイベント自体は図書館協会との共催で実行委員会形式によりやっているが、その辺の準備を工夫する必要もでてくる。

会 長／遅らせて年末の行事にするというのは、危険かもしれないが一面では面白いかもしれない。私の勤務先も大学図書館として参加しているが、課題は、学内での広報もなかなか難しくどのようにアピールするかということである。実際に私の勤務先の学生に声をかけても、忙しいということのほかに、あまり認知されていないという実感がある。たんにチラシを置くとかポスターを貼るだけでは駄目なのだろう。また、大学図書館の展示はどうしても地味な感じになるので、もっとアトラクショナルなことも盛り込む工夫が必要と感じた。高校の展示はいつも人がたくさんいて、私自身もとても面白く見せてもらい、参考になる。誰を対象にするかということ言えば、図書館は生涯にわたって使ってもらう施設であり、県民全ての方が対象になるとのが理想だが、大学生等の参加が少ないということなら、もう少しその辺にアピールできるように考えていきたい。

(3) 平成28年度当初予算案について

〔熊谷図書館 大嶋副館長〕

資料3に基づき、図書館管理運営関係予算、県立図書館関連事業予算の内容及び前年度比較について説明。

【質疑】

委 員／資料費について全国的な統計もあるようだが、全国的に見ると埼玉県はどれぐらいの位置にくるのか。随分少ないようなイメージがある。

それから県立図書館再編整備事業というのは、来年度で終わる事業なのか。あるいは2、3年したら無くなる事業なのか。

事務局／本県資料費の全国都道府県立図書館における位置づけは、2015年度予算についての日本図書館協会調査によれば、全国的には13位である。

来年度以降の再編整備事業については、浦和図書館の解体工事費が2ヵ年事業になっているので、少なくとも29年度までは事業的には残ると考えられる。

委員／資料費が今後増えるという可能性はあるのか。

事務局／できるだけ増えるように努力してまいりたい。

委員／今、ブックディテクションの説明はあったか。

事務局／それは真ん中より下の県立図書館関連事業予算の2番目、図書館利用環境整備事業で予算化している。

委員／内容的によく分からない。

事務局／これは図書館の資料閲覧室において貸出の手続きをしないで退室するとブザーがなる盗難防止用装置である。

委員／前回も指摘したが、できるだけ分かりやすい言葉にして欲しい。少し細かい部分だが、2の県立図書館関連事業予算の中の一番上の県立図書館情報化推進事業の説明の1行目、今までずっとICTで通ってきていて、なぜここはITなのか。言葉使いは統一して欲しいし、専門用語は分かりやすく表現して欲しい。

事務局／大変申し訳ない。昨年要覧にも予算の説明があり、それはITとなっていて、それを踏襲したものである。

来年度の要覧作成はこれからであるので、表現を検討させていただく。

委員／県立図書館再編整備事業の中の外部書庫、浦和分室の運営経費について聞きたい。浦和分室については、新しい図書館ができるまで継続して利用できるのか。

また、外部書庫については、今後、県内でいろいろな図書館が持っている雑誌や保存資料は増えていく一方だが、それについてもある程度余裕を持った形での書庫として整備されるのか。

事務局／分室の運営に関しては将来的なことはまだ決まっていないが、現在のところ、今の場所で窓口として開いていくという考えである。

外部書庫に関しては旧浦和図書館の蔵書が熊谷図書館に収まりきらないので、それを補完するという形で整備した。雑誌に関しては今まで同様、県立図書館で保存していくが、図書に関しては余裕がないので引き続きそれぞれの図書館単独で保存してもらえればと思っている。

会長／浦和分室は、今どのくらい稼働しているのか利用状況を教えてほしい。

事務局／6月11日に開設して順調に利用がある。狭い部屋なので1日あたり20人前後の利用である。ただし、11月に熊谷図書館の資料が利用できなくなってからは、資料が約3分の1、つまり久喜図書館の物だけとなり、1日あたり17人程度の利用になっている。今度、熊谷図書館のリニューアルオープンによる増加を期待している。

会 長／外部オンラインデータベースを充実したいという話は、新しいデータベースを導入するという事か。

事務局／新規のオンラインデータベースは、3本ほど導入する予定である。まずビジネス支援関係のもので、市場情報評価ナビ、そして週刊誌や雑誌の記事が検索できるWeb OYA - bunko、これは今まで紙媒体であったものを新たに導入する。また、日本経済新聞電子版パブリックも導入する。その他に今まで浦和分室に無かった新聞系のオンラインデータベースを2つ入れる予定である。

会 長／それらのオンラインデータベースは、図書館からでないとアクセスできないのか。

事務局／今のところ図書館に来館し、図書館でIDパスワードを入れて見ってもらうもので、自宅からインターネット経由で図書館を通してというサービスにはなっていない。ただし、徐々に利用する方も増えており、データベースについては、さらに充実を図っていきたいと考えている。

会 長／来館が難しい方もいるので、自宅からアクセスできればとても便利である。費用の問題で難しいかと思うが、可能性があるなら是非検討いただきたい。

会 長／先ほどから広報ということが出ているが、県立図書館を広く知ってもらう、また、その活動について多くの人に知ってもらうため、ホームページを工夫したり、いろいろな広報資料を充実させることが大切と思う。その辺の経費は確保しているのか。

事務局／ホームページの経費は県立図書館情報化推進事業の方で計上されている。図書館のPR用リーフレット、冊子などの広報媒体については「1 図書館管理運営関係予算」の図書館サービス運営費に計上している。

(傍聴者1名退席)

(4) その他

ア 熊谷図書館のリニューアルオープンについて

〔熊谷図書館 木村教育主幹〕

資料4に基づき、熊谷図書館のリニューアルオープンについて説明。

資料4-2に基づき、熊谷図書館本館及び外部書庫の工事状況について説明。

【質疑】

会 長／リニューアル展示は、ビジネス支援室で行うのか。

事務局／2階のロビーに展示コーナーが元々あり、その展示ケースを使って熊谷図書館の新しい機能について展示、説明を行う。

委 員／この資料を見ると熊谷にも児童書が置いてある。児童書の中心は、久喜図書館と認識していた。

事務局／児童書については、今ある物を引き継ぐということでやっていく。

委 員／新しい資料を入れたりするのか。

事務局／配本は、原則として久喜図書館で行う。熊谷の子ども読書室は、現在の機能を継続していくものである。

委 員／私の意見はむしろ止めるべきではないかと思う。というのは、県立図書館は狭いので、資料の保管場所は1館にすればよい。利用者にとって不便な部分があるにしても、2館の中で全ての資料をきっちり2つに分けて、それぞれの館が自分の分野に責任を持って活動するというのであれば、児童書については久喜図書館がきちんと支援室を持って、子ども達に貸出サービスを行い、県内全域の市町村支援を全力でやるのが望ましいと思う。児童書を熊谷に残しておいて、新しい児童書が出ても、また、改訂の児童資料が出ても補充せず、古い児童書だけで子ども室を運営するのは、利用者に対する裏切りだと思う。

児童書については、熊谷図書館で責任を持ってサービスする必要はないと思う。このような発表の記事が出てしまい、今さらながらではあるが私としてはこうした意見を述べておきたい。

会 長／貴重な意見だと思う。児童書、児童支援については、久喜がこれまで中心となってきたが、その機能も資料も集約してもっと力強く進める、分担の機能をもう少し強化する、そういう指摘だったかと思う。これに関して他の委員の意見も聞いてみたいがいかがか。

委 員／自分の体験によると子どもというのはある特定の本を読み聞かせるもので、図書館で児童書が置いてあるのは、どういう方が使っているのかイメージがわからない。私も子どもに数百冊の本を読み聞かせてきた。当然子どもなので汚すし、よだれを垂らす、お菓子をつけてしまうなどの問題はあるが、それはそれで親子の歴史だと思う。図書館の児童書を読んでいる人とは誰なのかと聞きたい。

委 員／私は公共図書館に38年間おり、子ども読書の分野にも関係した。誰でも本を買える環境ではないし、子どもはどんどん大きくなるし、それだけ買った場合にはお金がかかるし、中には、その結果、気にいらぬ物もあると思う。しかし、図書館に行って本を借り、気にいれば買って

もらうとこともできる。物として残ることは素晴らしいし、親子でこの本を読んだという記憶は素晴らしいと思うが、図書館で地域の子もたちや仲間とそういう財産を共有する経験というのは子どもにとって大切だと思うし、本を汚してはいけないという教育も十分できると思う。

ただし、市立図書館ではそうしたことが大切だと思うが、県立図書館はやはり役割が違う。ここに子どもの本があれば、子どもや大人も使うと思うが、狭い施設でビジネス支援を利用する人も多いなかビジネス書のスペースをもっと広くし、ビジネスについて調べに来た人を支援する方がいいのかと思う。しかし、このように発表したのなら、それでもいいのかなと思う。

委員／私も基本的には児童書は市町村の機関を中心にという考えが適切ではないかと思う。ただ、おそらく熊谷図書館の場合には将来展望を持って一時的に今ある物を有効活用して子ども読書室を設置しているかと思うので、できる範囲でするのであればそれほど慌てて廃止したり、機能集約する必要もないという意見である。

会長／熊谷市立図書館についての情報を今持っていないが、県立図書館の大きな役割に市町村立図書館に対する支援がある。第一線の児童サービスは市町村に委ね、市町村立図書館への支援、バックアップを県立がやるということであれば、子ども室を熊谷に置かなくてもいいように思う。そのあたりはいかがか。熊谷図書館の考えや、これからの展望、将来的な見通しとかあれば聞きたい。

事務局／大変難しい話だが、先ほど説明したとおり、今回は熊谷図書館のリニューアルということで基本的に今あるサービスはそのまま残し、さらにパワーアップするということで、児童サービスについてもその基本的な考え方に沿ったものである。2館体制の過渡期ということで浦和図書館にあった機能を熊谷図書館に移し、熊谷の児童サービスはそのまま残した。しかし、それで久喜図書館での子ども読書支援サービスを弱めるということは一切ない。その点は御承知おきいただきたい。

久喜図書館には子ども読書の担当がいるということで今までどおりで、児童書の選定収集は県立としてしっかりやっていきたい。

会長／今回のリニューアルについては、これまでの既存の役割は変えずに浦和の機能を持ってきて一緒にするという説明であったが、将来的には先ほどの児童書のことについても併せて検討していただきたい。

委員／せっかくビジネス支援室を設けるので、1つお願いしたい。今、産官学交流を含めて産業界、役所、それと大学で、ビジネスに関する動きが急速に進展しており、私どもの方からいろいろ広報している。例えばポスターを貼るとか、それぞれのホームページ等で広報しているが、是非

この支援室にポスターを貼る場所を用意していただきたい。当方からも各団体にそうした話をしてみるし、図書館を訪れる社会人の方が掲示を見て啓発されることもあると思う。掲示場所の確保をお願いしたい。

委員／度々、広報の事が出ていたので、これは協議会とは関係ないが、本日配布された「災害を記憶する」という久喜図書館資料展の資料を見て、3. 11のことをきちんと図書館で扱っていると感心した。この資料を見ると、東日本大震災に関する雑誌リストがあり、雑誌名と出版者が書いてある。しかし、ここに記事の内容がない、たとえば先頭の「遺伝」という雑誌名だけでは震災に関するどのような記事か全く見当がつかない。記事のタイトルや内容がなければ資料展パンフとしては不十分ではないかと思う。こうした資料は後に残って、県立図書館の仕事という形で記録されると思うので、もう少し工夫して、雑誌の記事を読んでもよいかという気持ちになるようなリストにしていきたい。

会長／より丁寧にとということをお願いしたいと思う。手間が大変とは思いますが、どういう特集でどういう記事かがわかる一覧ならとても親切だし、記事索引としても後で役にたつ。よろしく検討いただきたい。

会長／事務局、委員の皆様からその他ございますか。
事務局、委員それぞれなし

議事終了

平成28年度の第1回協議会は、7月下旬に開催する予定。

6 閉会

〔久喜図書館 銭場教育主幹〕

会議録署名

会 長 _____ 印

委 員 _____ 印

委 員 _____ 印